６．１　緊急消防援助隊の派遣

消防庁では、能登半島地震の発生と同時に消防庁長官を本部長とする「消防庁災害対策本部」を設置、全職員が参集し被害状況等の情報収集活動を開始した。

同日、10時15分に石川県知事から消防庁長官に対する緊急消防援助隊の派遣要請を受け、同時刻、京都府に対し、さらに10時45分には福井県、滋賀県、富山県に、その後も東京都、大阪府、兵庫県に対して緊急消防援助隊の出動を求めるとともに、石川県等と緊急消防援助隊の受入れ体制等についての調整を開始し、1都2府4県から緊急消防援助隊87隊349人が出動し、相互に連携した活動が行われた。

また、上記に加え、金沢市消防局を中心とした石川県内広域消防応援部隊14隊53人が活動し、被害状況等の情報収集及び救急活動等を実施した。

緊急消防援助隊については、平成16年新潟県中越地震災害以来の大規模な出動となり、平成18年3月に運航を開始した消防庁ヘリコプターが初めて災害出動することとなった。

緊急消防援助隊は、福井県隊が同日13時20分に能登有料道路の高松ＳＡに到着、以後、富山県隊、滋賀県隊も集結を完了した。その後緊急消防援助隊の活動拠点を輪島市の門前地区としたことから、各部隊は同地区に進出、地元の奥能登消防及び県内応援隊と合流し、被害状況の情報収集活動等を実施した。翌日早朝から門前地区において倒壊家屋等の検索活動を再開、各消防部隊及び消防団等と連携した活動を実施し、2日間の活動を終了した。

表6.1.1　能登半島地震における各都府県の緊急消防援助隊出動状況（2日間の延数）

措置要求時間	応援都府県	航空部隊	指揮支援隊	都道府県指揮隊	消火部隊	救助部隊	救急部隊	その他特殊部隊等	後方支援隊	部隊数計	出動人員計
10:15	京都府	1	2							3隊	14名
10:45	滋賀県			2	8	5	8	2	7	32隊	124名
10:45	福井県			1	5	4	3		2	15隊	65名
10:45	富山県	1		1	12	4	10		4	32隊	127名
10:55	大阪府	1	1							2隊	8名
10:55	東京都	1	1							2隊	6名
12:00	兵庫県	1								1隊	5名
合計		5隊	4隊	4隊	25隊	13隊	21隊	2隊	13隊	87隊	349名

６．２　緊急消防援助隊の要請および受け入れ

写真6.2.1　緊急消防援助隊の活動状況（１）：穴水町

穏やかな初春の日曜日の朝、能登半島が突然、衝撃音と共に大地が大きく揺れ動いた。

平成19年3月25日（日）午前9時41分に発生した能登半島地震は、死者1名、重軽傷者356名、住家全壊686棟、住家半壊・一部破損28,698棟（平成20年12月25日現在）という未曾有の被害をもたらした。

石川県は長い間、直下型地震とは縁のない土地と言われていて、今回の地震は地元住民の根幹をも揺るがすものとなり、更に、その前後を挟み数年の間に発生した新潟県中越地震・中越沖地震を見るように、同じ地域に2回発生しないというジンクスさえも根底から崩れ去った。

日本列島は、いつ・どこで大地震が発生しても不思議ではないことが、新潟・石川県での3回の地震で改めて実証された。

阪神・淡路大震災から13年、その教訓を踏まえ創設された緊急消防援助隊（以下「緊援隊」という。）は、新潟中越沖地震を含め過去10回の出動件数を数えている。

奥能登広域圏事務組合消防本部からは、過去2回緊援隊として派遣しているが、要請は想定外であった。

当日、午前10時10分に輪島市災害対策本部が設置、まもなく同刻15分、県知事から消防庁へ緊援隊要請、石川県隊を含めた各都府県隊の大集団が夕刻までに、赤色灯を点滅させ次々と輪島市に集結した。輪島市文化会館前駐車場に集結した滋賀県隊は翌日早朝に被害が集中している門前地区に移動。

また、門前地区に25日午後集結した石川県消防広域応援隊は、到着と同時に門前分署員と救急隊等を臨時編成し、殺到する救急要請、ガス漏れ警戒、倒壊家屋危険調査等の任務に当たった。

26日早朝、輪島地区から到着した滋賀県隊と昨日門前地区に到着した富山・福井県緊援隊並びに石川県消防広域応援隊が門前分署前駐車場に集結、地元消防団員の案内で門前地区各集落の検索活動に出動する。

写真6.2.2　緊急消防援助隊の活動状況（２）：穴水町

また、東京消防庁・京都府隊・大阪府隊ヘリが上空から情報収集活動を実施、被害状況を調査した。

午前9時42分に検索活動終了、同11時50分に門前町簡易グランドで緊援隊の解隊式を行い帰路につく。

当初、当消防本部では緊援隊の派遣が決定し受け入れに際し、能登地区への幹線である能登有料道路及び志賀町（旧富来町）の国道249号線が通行止めとなる。残る七尾市側の国道249号線のみが通行可能で、緊援隊の到着が渋滞等で遅れることも予想に入れ、奥能登の玄関口である穴水町で消防本部誘導班が待機し到着を待ち、穴水町役場駐車場から輪島地区、門前地区の二手に分

かれ緊援隊を誘導しながら、被災地輪島市に入った。

表6.2.1　能登半島地震災害時の119番等の受信状況

	119	携帯119指揮隊	警察電話	一般電話	その他	計
輪島	8	36		30	1	75
門前	5			4	2	11
町野				1	1	2
珠洲	9			7		16
能登	2		1	8		11
内浦	2					2
柳田	3				1	4
穴水	4			4	2	10
合計	33	36	1	54	7	131

図6.2.1　能登半島地震分布図

今回の地震では、緊援隊の被災地活動は2日間であったが、数日間の活動に及ぶ場合に緊援隊に最高レベルの活動を期待するには、受け入れ側もそれに見合った受援体制が必要だが、被災地消防本部にその余裕がなかったのが現状である。

その点で、奇跡的に住宅火災及び住宅倒壊・斜面崩壊による死者の発生はなかったが、今後、緊援隊受け入れ時には、これらのことを鑑み様々な災害様相を想定した受援体制と平行に迅速な消防活動がミックスできることが必要かつ検討課題である。

写真6.2.3　緊急消防援助隊の活動状況（３）：穴水町

６．３　警察による広域応援

（１）石川県警察の活動

石川県警察では、3 月 25 日午前 9 時 45 分、警察本部に警察本部長を長とする「石川県警察総合警備本部」を設置したほか、県下全警察署に警察署長を長とする警察署災害警備本部を設置して、警察本部長以下最大で 1 日約 1,100 人体制で初動措置に当たった。

現地における活動としては、3 月 25 日から 5 月 6 日までの間に機動隊、交通部隊、航空隊、被災者支援隊等延べ約 3,000 人の警察職員を輪島市、穴水町等に派遣し、以下の災害警備活動を実施した。

○　被災情報の収集
○　被災者の捜索、救出救助活動
○　被災者の心のケア、要望把握活動
○　犯罪発生防止のための地域安全情報の提供、パトロール活動　等

写真 6.3.1　輪島市門前町道下
（平成 19 年 3 月 26 日）

（２）広域応援

石川県公安委員会の援助の要求に基づき、次のとおり広域応援が行われた。

①　広域緊急援助隊

警察庁は 3 月 25 日午前 11 時 15 分、愛知県警察、岐阜県警察、福井県警察及び新潟県警察の警察広域緊急援助隊（約 400 人）に対して、石川県への派遣を指示。

同日、福井県警察広域緊急援助隊は輪島市に、岐阜県警察広域緊急援助隊は穴水町に入り、3 月 27 日までの間、被災情報の収集、捜索活動等を実施した。

※　愛知県及び新潟県警察広域緊急援助隊の派遣要請は、25 日午後 6 時 15 分に解除

②　航空隊

福井県警察航空隊ヘリ「くずりゅう」、京都府警察航空隊ヘリ「へいあん」（3 月 25 日、26 日）及び愛知県警察航空隊ヘリ「あさやけ 2 号」（4 月 2 日～5 日）が、上空から被災状況の情報収集に当たり、ヘリテレ映像を石川県警察総合警備本部、警察庁、官邸等へ送信した。

③　機動警察通信隊

中部管区機動警察通信隊（3 月 25 日～27 日）、富山県、福井県及び新潟県機動警察通信隊（3 月 25 日、26 日）が、警察署警備本部における情報通信機器の設置や衛星通信車による被災状況の映像送信等に当たった。

６．４　自衛隊の災害派遣活動

能登半島地震では、3 月 25 日 11 時 08 分に石川県知事から自衛隊の災害派遣要請が行われた。それに基づき、3 月 25 日以降、給水・給食支援、入浴支援等を行い、4 月 8 日の撤収要請に基づき撤収した。派遣された人員と機材は、延べ数で人員が約 2,730 名、車両が約 1,050 両（水トレーラーを含む)、航空機約 60 機であった。

また、派遣規模としては以下のとおり。

■　人員：2,137 人
■　給食支援：38,709 食
■　給水支援：195.7 t
■　入浴支援：2,076 人
■　毛布の貸与：820 枚
■　屋根のブルーシート：12 棟

表 6.4.1　能登半島地震における自衛隊の災害派遣の状況

日　程	内　容
3 月 25 日	◆石川県知事から災害派遣要請（11:08） ◆輪島市及び穴水町において給水・給食支援等を実施
3 月 26 日～27 日	◆輪島市、穴水町、志賀町、七尾市において給水・給食支援等を実施
3 月 28 日～31 日	◆輪島市、穴水町、志賀町において、給水・給食支援、入浴支援等を実施
4 月 1 日～2 日	◆輪島市、穴水町において、給水・給食支援、入浴支援等を実施
4 月 3 日～4 日	◆輪島市において、給水・給食支援、入浴支援等を実施
4 月 5 日～7 日	◆輪島市において、給食支援、入浴支援等を実施
4 月 8 日	◆石川県知事から撤収要請（10:08）

（出典）内閣府：平成 19 年（2007 年）能登半島地震について（第 33 報），平成 20 年 1 月 7 日

６．５　他市町村による応援活動

他市町村並びに他県から、１県（※）24 市 5 町から延べ 1,510 人の応援があった。活動内容としては、主に以下のとおりである。なお、市町村別の職員数は表 6.5.1 のとおりである。

■　り災証明に係る被害認定
■　被災者生活再建支援法
■　給水
■　ごみ収集
■　漏水調査及び漏水修理
■　下水道緊急被害調査
■　避難所健康チェック

表 6.5.1　他県、市町村別の応援職員数

	自治体名	延べ日数	延べ人数
石川県	金沢市	51	355
	小松市	42	115
	珠洲市	18	44
	加賀市	21	43
	羽咋市	8	13
	かほく市	25	50
	白山市	24	76
	能美市	13	21
	野々市町	20	35
	津幡町	8	11
	内灘町	16	31
	宝達志水町	7	22
	能登町	2	4
新潟県	新潟県（※）	7	14
	新潟市	7	28
	長岡市	32	83
	柏崎市	6	24
	小千谷市	18	40
	十日町市	9	36
	見附市	5	10
	上越市	6	12
	魚沼市	8	16
富山県	富山市	3	12
	高岡市	6	22
	射水市	4	12
福井県	福井市	12	69
愛知県	名古屋市	26	289
滋賀県	高島市	1	9
茨城県	取手市	4	8
千葉県	柏市	3	6
合　　計			1,510